

明治四十一年

(一月)

一月一日 乙卯 水曜 四方拝。晴。

朝五時起。祖先参拝。七時食堂に集ル。越年生徒一同と共に雑煮を祝ふ。例の如し。賀客、岡崎国良、大炊家政。

発信 秋田千田氏え続地社頭松画出す。

一月二日 丙辰 木曜 晴。

朝九時より年賀廻り出向ル。東郷氏、島田氏、中村元嘉氏。閑院宮様にて御祝酒、御昼餐を戴て、三条家、一条家、九条家、志賀氏、東伏見宮、陸軍大臣寺内氏、角田氏を問て帰。

一月三日 丁巳 金曜 元始祭。晴。

朝より本所安田両家に行、別府氏を訪ふ。田村氏を問ふて帰。

一月四日 戊午 土曜 晴。4 (ママ) (度)。

朝より揮毫ものす。来客、久米万千代、阿部基安。

発信 米国津田氏え所々え年賀状出す。

一月五日 己未 日曜 晴。4 (ママ) (度)。

朝より揮毫ものす。弘も病氣全快す。

受信 年賀状三百軒より着。本日にて三百数。

発信 諸氏え年賀状出す。

一月六日 庚申 月曜 晴。4 (ママ) (度)。

朝十時より藪子を始めとして、田中久右衛門、小笠原子、久米氏、千家男を問て帰。

一月七日 辛酉 火曜 雪。

昨夜よりのはつ雪、珍らし。

受信 年賀状三百九十四数。

発信 三。

一月八日 壬戌 水曜 晴。

始業式執行。午下一時、教員生徒一同着席。始、君か代、二、始業の詞、校長朗誦、校歌、

三、四、五唱歌、式全畢。楼上にて余興、福引、集ル者二百名、三殿下成らせられる。四時全畢。汲泉を出、發行す。

一月九日 癸亥 木曜 晴。

課業始める、午下二時より。宮城御局え参る。四時過退出す。来客、(以下、欠)

一月十日 甲子 金曜 晴。

課業例の如し。

一月十一日 乙丑 土曜 晴。

泉会発会ニ付、休業。習字教場入口杉葉アーチ、天井より種々なる造花の美しくしきを蛛手につるし、四方紅白の幕を張り、食卓ニハ花籠所々に置き、一同裁縫教場に集る。午下二時より式場に入り、福引執行。上面幕にぬさをたれて、福引札一番より十番迄の人、此ぬさを引き取る。是に或ハ獅々五番あり、布袋アリ、元祿美人アリ、令嬢、田舎娘、寿老人、弁天、伸士、戒、大黒、種々様々の人物、其くじによりて景物を持来る。令婦人、小原女等にて趣工面白く、大掲采、七十八番迄。夫より食事、御雑煮、すもし、ゴマメ、数の子、牛房、むし菓子等にて、接待人ハ右の仮相の人々取持たり、午後五時全畢。

受信 訃音、万里小路民子、昨日死去。

*獅々(獅子) *伸士(紳士) *趣工(趣向) *大掲采(大喝采) *仮相(仮装)

*戒(戎) *牛房(牛蒡)

一月十二日 丙寅 日曜 晴。

朝、茅町岩崎男を訪ふ。久弥氏に面晤して寄附の義を願ふ。種々談話有りて已而帰。午下早々、酒井伯を訪ふ。三村氏を問ふ。群平氏に逢ふ。下瀬氏、小村氏を問ふ。不在。桐島像一氏を問ふ。始めて逢ふ。種々有益なる事をはなす。点灯頃帰。

発信 万里小路え弔詞出す。

一月十三日 丁卯 月曜 晴。62(度)。帝国海事協会新年会、午下一時。

課業例の如し。午下早々、姉小路大炊氏年礼に行。帝国海事協会本部に発会式ニ集る。雑煮、其外種々福引等にて面白し。四時帰。帰途、石山氏ニ行て帰。来客、姉小路公政伯。

一月十四日 戊辰 火曜 陰晴。

来客、姉小路延子、年始に来られる。

一月十五日 己巳 水曜 雪。

課業例の如し。

一月十六日 庚午 木曜 晴。

課業例の如し。

発信 横浜荒井艶子え。

一月十七日 辛未 金曜 午後二時、愛国婦人会。会費、老円。

課業例の如し。午下一時半より、愛国婦人会新年会二行。総裁殿下御台臨。会する者、二百何十人、盛会也。福引、食事御弁当。四時去ル。清野長太郎氏を問ふ。御夫婦に面晤して、寄附を依頼す。夫より雨宮氏を問ふ。不在にて不逢、已而帰。

一月十八日 壬申 土曜 晴。 婦人法話会、午後一時。

午下早々、婦人会に参る。御法話二席聴聞して、予等後席にて食事の饗応有て帰。本年度会費三円六拾銭を納む。

発信 房州重たけ、遠藤よし為え。

一月十九日 癸酉 日曜 晴。 薰風会、不参。

朝より田端諸葛小弥太氏を問ふ。夫より根岸美野部俊吉氏を問て帰。

*美野部 (美濃部)

一月二十日 甲戌 月曜 晴。

課業例の如し。来客、石川たか子、石川信子、小村文子。

一月二十一日 乙亥 火曜 晴。

課業例の如し。桃子、堀田伯研究会二行。来客、大坂木津医師河村恒夫氏、来栖貞子。発信 星野花子え。

一月二十二日 丙子 水曜 晴。 39 (度)。

課業例の如し。午下、墓参して帰。来客、岩佐千賀子、小布施春子、其姉と。

発信 山形県長井利右衛門より書及潤筆金廿五円請取。諸葛小弥太氏より。

一月二十三日 丁丑 木曜 晴。 36度。

けふの寒気ハ第一たらふと思ふ。もの皆氷る。

発信 長井氏より絹本小包にて着。

発信 諸葛氏え。

一月二十四日 戊寅 金曜 晴。 45 (度)。

課業例の如し。

受信 海事協会より入場券着。

発信 東洋婦人会え。

一月二十五日 己卯 土曜 晴。46 (度)。

午下早々、佐藤進氏、酒井伯、土方、岩村、棚橋氏を問て帰。来客、橋本縫子其姉と、原礼子。入塾(以下記述ナシ)。

一月二十六日 庚辰 日曜 晴。

朝十時より、高輪岩崎男に行。執事フカに逢ひて、種々咄し度し置、夫より大村氏に行、恐悦申上る。梅子様御出生の御子さまも見上る。実に立派なる御子さま也。御昼を戴て、夫より井上馨侯を問ふ。来客中に不逢して帰。東洋婦人会新年会、鍋島侯爵邸に開かる。点灯後帰。

受信 大村梅子男子出産、母子共健全、御知らせあり。

摘要 東洋婦人会、午下二時。

*咄し度し(咄し致し)

(二月二十七日〜三十一日、記載ナシ)

(二月)

(二月一日〜九日、記載ナシ)

二月十日 乙未 月曜 晴。

早起。出立準備して、朝八時汽車に乗す。安田善五郎、鳥尾光子、同行してくれられ、停車場迄の見立人、安田善治郎御夫婦を始として、廿五人の見立人にて、賑々しき事也。軽便鉄道より電車汽車にて大々賑々敷、少しも退窟なく、新橋午下二時廿五分着。迎ひの車不来、やとひ車にて帰。宅一同驚々入候。種々熱海之咄しにて、夜十時臥。

*退窟(退屈)

二月十一日 丙申 火曜 紀元節。晴。
休業。

二月十二日 丁酉 水曜 晴。
課業例の如し。

二月十三日 戊戌 木曜 晴。
課業例の如し。

(二月十四日、記載ナシ)

二月十五日 庚子 土曜 晴。

戸田伯、西村、今津覚太郎、岩下、閑院宮、花房子□村井、高橋□大橋。午下六時、日下部三九郎夫婦小児共、旅順出張ニ付、新橋迄見立て帰。

二月十六日 辛丑 日曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

二月十七日 壬寅 月曜 晴。

正午より歌舞妓座ニ行。義勇艦隊慈善演劇、委員惣見物也。此時、岡田氏を問ふ。

二月十八日 癸卯 火曜 晴。

午下、弥生町堀田伯ニ於テ研究会ニ出て点灯頃帰。壺井久馬三氏を訪ふ。

*壺井(坪井)

二月十九日 甲辰 水曜 晴。

課業例の如し。泰、桃子、石山威、岡崎之四名、歌舞技ニ行。此記事廿日也。

故愛四郎一周忌相当ニ付、休業、予、桃子のみ。午下二時、光円寺にて法事相営。来会者、家内一統、横浜原氏、姉小路良子代、同公正、石山基陽、大炊晨子、跡見玉枝、岡崎正子、橋本太吉、宮原六之介、久米氏、清水初、仁科駒、北村静、市蔵、万里伯。読経済て、宅にて御合物之法式ニ付、夜九時全畢、退散。

*歌舞技(歌舞伎) *同公正(同公政) *御合物之法式ニ付(御合物之法式ニ着)

二月二十日 乙巳 木曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

二月二十一日 丙午 金曜

課業例の如し。

来客、河内山岡基一郎、失敗して逃て来る。

二月二十二日 丁未 土曜 晴。

課業例の如し。正午より歌舞妓に行、夜八時半帰。午下五時頃、雨甚し。但シ膏雨可悦。

二月二十三日 戊申 日曜 晴。

朝、五軒町姉小路良子様御下りニ付、訪問致して種々御咄し申上る。九時御上りに成る。直に帰。来客、京都泰良尼と神戸宝求寺茂子、点灯迄。

二月二十四日 己酉 月曜 雪。夜に入てまた雪深し。

課業例の如し。

受信 福島須藤幸策。

*須藤幸策(須藤道策)

二月二十五日 庚戌 火曜 晴。

朝より揮毫ものす。来客、衆議院議員植場平妻こつえ子。

二月二十六日 辛亥 水曜 晴。

課業例の如し。来客、原富太郎氏。

二月二十七日 壬子 木曜 晴。

課業例の如し。鶴子の祝もの配り、本日より始まる。

二月二十八日 癸丑 金曜 晴。

課業例の如し。鶴子の祝もの配りニ付、宮城え出したる者、御印鑑紛失致し、大さわきする。来客、山内旭花。

二月二十九日 甲寅 土曜 雪。

課業例の如し。鶴子の祝もの配り、本日にて済。

(三月)

三月一日 乙卯 日曜 雨。

終日揮毫ものす。今井、桑港より昨日帰朝。対面して津田氏の模様を聞、明日静岡の国元え帰り候よし也。来客、植場平妻。

受信 神代鶴子より始めて書至。姉小路良子さまより。

発信 房州跡見え鶴の子餅、松魚出す、文も。神戸神代え。

三月二日 丙辰 月曜 晴。52(度)。

課業例の如し。来客、日野西広子、志賀鉄千代。
発信 神代え小包出す。

三月三日 丁巳 火曜 晴。
課業例の如し。午下三時頃より、雛祭りにて、塾の子供等を呼て、大人も共に白酒汲替して、夜八時迄遊ぶ。

三月四日 戊午 水曜 雨。
課業例の如し。

三月五日 己未 木曜 晴。
朝大雨、昼頃より天如拭晴たり。午下三時より、村井氏に行、夜に入て帰。
摘要 村井氏より東洋婦人会員を招待す。

(三月六日、七日、記載ナシ)

三月八日 壬戌 日曜 晴。
正午より、松井氏、閑院宮、村井氏、石山氏、戸田氏、田村氏を訪て帰。

三月九日 癸亥 月曜 雪。
課業例の如し。朝とく起て、五軒町姉小路に良子様を訪ふ。暫時閑談。九時御上りに相成、おのれも帰。

発信 福島須藤道策え絹本画二枚出す。

三月十日 甲子 火曜 雪。
課業例の如し。もゝ子、松井氏を問ふて帰。来客、吉村滋子。

三月十一日 乙丑 水曜 晴。
昨夜の雪にて積る事三寸、珍らし。課業例の如し。神代氏より土産物五品着。

三月十二日 丙寅 木曜 晴。
課業例の如し。五年生画の稽古にかゝる。
受信 神代鶴子より書至。
発信 神代夫婦え書出す。

三月十三日 丁卯 金曜 晴。

課業例の如し。

三月十四日 戊辰 土曜 晴。

泉会。課業畢る。泉会、会者五十人余。元良博士講演、人格と常識。

三月十五日 己巳 日曜 晴。 \ 松井脩徳来る。

正午前より芝薫風会へ行、五時帰。来客、長尾収一氏。

三月十六日 庚午 月曜 晴。

課業例の如し。来客、松井脩徳。午下一時より、上野常盤花壇二行。義勇艦隊女子部慰勞会。余興、長唄、落語、畢而後、弁当。畢而帰。来客、山形鈴木弥左衛門、峰江。

受信 土井氏より端書着。

摘要 午後一時、上野常盤花壇、海事協会女子部。

三月十七日 辛未 火曜 晴。

課業例の如し。来客、米国黒沢氏母と其孫、入学願出る。承諾す。大草茂子、鈴木峰江娘。

受信 土井氏より小包、昼時雨煮着。

発信 土井氏え返書。向山ためえ書出す。

三月十八日 壬申 水曜 雨。

課業例の如し。乾先生一周年忌二付、正子のみ参詣して帰。

三月十九日 癸酉 木曜 雨。

課業例の如し。

三月二十日 甲戌 金曜 雨。

五年生画にかゝる。来客、吉村滋子、其姪入学願出る。

三月二十一日 乙亥 土曜 晴。

五年生卒業製作画かゝせる。午下三時迄。午下五時頃、雪降り出して已而晴。外生徒本日授業納をなす。

〔イ第五八 宮内省 六七号〕本日姉小路良子殿より拝借候事。

受信 姉小路良子様より右御門鑑着、直に返書ス。戸田富子。

三月二十二日 丙子 日曜 晴。

朝、散歩して帰。朝九時より、研究生製作画にかゝる。本日出来する。

三月二十三日 丁丑 月曜 晴。

朝、散歩して帰。正午前より、予、正子、桃子、井深氏と愛国婦人会演芸を新富座にみる。夜十時帰。

三月二十四日 戊寅 火曜 晴。

本日、卒業生謝恩会執行二付、婦人教員を招く。種々なる余興あり。教員より種々趣工なる福引もありて、五時全畢。卒業生より、紅白幕二張寄贈。

*趣工(趣向)

三月二十五日 己卯 水曜 曇。

朝、散歩して帰。終日直しものに忙し。

三月二十六日 庚辰 木曜 晴、雨。朝より曇り、其内晴渡りて、午下二時頃より本雨となる。

早起。散歩して帰。明日の準備に忙し。今朝の新聞にては、岩崎弥之助男、昨廿五日夕六時死去のよし、残念限りなし。千家男爵司法大臣、堀田正養子通信大臣に任命せらる。

三月二十七日 辛巳 金曜 晴。

卒業証書授与式執行。午下一時、教員生徒参集。如例、校歌、一、二、三、四、五、唱歌、校長訓辞、授与式。卒業生惣代答辞、三浦光子。別離、鈴木鶴子。四年惣代祝辞、吉田福子。研究生六名、卒業生三十名。畢而撮影す。二年教場にて教員及卒業生え寿もし、茶菓、外一同え菓。五時全畢。

三月二十八日 壬午 土曜 晴。

訃音、岩崎弥之助男死去、去ル廿五日。朝より、予岩崎家に行、弔詞を伸へ、御暇乞仏前に拝す。帰路千家男二行、司法大臣ニ栄転せらるゝを祝して帰。午下、北白川宮邸に詣し、竹田宮近日御慶事あらせられるゝに付、恐悦申上候。富君様、其外姫宮様方にも拝謁して、閑院宮に詣し、両殿下に拝謁、近日群馬県え成らせらるゝ二付、御暇乞申上て帰。

*あらせられるゝ(あらせらるゝ)(ママ)

三月二十九日 癸未 日曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

三月三十日 甲申 月曜

天晴雨不定、漸雨なくして終日過たり。午下早々、予、桃子と同しく芝青松寺行。二時、

岩崎男弥之助柩着、会葬者無量。三時帰。

三月三十一日 乙酉 火曜 晴。
朝、上野停車場に参る。閑院宮両殿下、群馬県赤十字愛国婦人惣会御台臨あらせられ（ママ）るゝ、御奉送申上て帰。

（四月）

四月一日 丙戌 水曜 晴。
朝、墓参して帰。

四月二日 丁亥 木曜
天晴雨定まらず。午下、予、桃子と上野美術学校卒業製作品観覧して、久保芙（空白）山下迂作氏舞台開き狂言尽しを見る。五時帰。

四月三日 戊子 金曜 神武天皇祭。晴。
朝餐済て十時より西村氏喜作に逢てフワブル氏を訪問す。始めて逢ふ。大に喜び、只二人にて泣々ルイズ子の事のみ申出して残心やるかたなく、一時帰。茂木氏持たれたる昼餐に逢ひて、後茶席、栄子手前にて薄茶の馳走に成りて、三時の汽車にて帰。

四月四日 己丑 土曜 雨。
雨、終日降りつゝきたり。閑院宮両殿下、群馬より還御あらせらる。奉迎せず。来客、神津田鶴子。

四月五日 庚寅 日曜 雨。
来客、鳥尾千世子、日野西姪と同道、入学願来る。加藤幸母、妹入学願はれたれ共、もはや余机なく断る。向山為え電話にて茂木氏よりの頼みを申遣す。新教員太田浪入塾、裁縫塾監に囑托す。

四月六日 辛卯 月曜 晴。
春学期始業式、新入生百廿人余、塾生も百一人。実に盛大なる事也。新教員迎照子、黒川豊子。
発信 茂木栄子、大坂唯専寺え。

（四月七日〜三十日、記載ナシ）

(五月)

(五月一日〜十八日、記載ナシ)

五月十九日 甲戌 火曜 晴。

早起。予、正子、泰と墓参して、所々散歩して帰。訃音、紀州新宮尾畑勝義、十六日午後四時十五分死去、十八日埋葬式。予、桃子と午後より堀田伯研究会に会す。晡時帰。

五月二十日 乙亥 水曜 晴。

早起。散歩して帰。訃音、侯爵徳川義礼様、昨十七日午後七時薨去、来ル廿四日午後一時名古屋自邸出館。来客、三浦せい、婦人画報記者。
発信 徳川良子様え、石沢健次郎え、新宮尾畑え。

*出館(出棺)

五月二十一日 丙子 木曜 晴。

早起。散歩して帰。業例の如し。午下早々、品川岩崎男を問ふ。不在にて直に毛利公爵邸に会す。天気も晴朗にて御国より公爵御夫婦御帰京にての御催し、殊更千五百人と云来客、さしも広き御庭に人員満々たり。今は花もなく、たゞ青葉のみにて、かへりてすか〜しく覚えたり。もぎ店盛なり。四時より立食。畢て帰。来客、秋田千田勇。

摘要 午下二時、毛利公爵園遊会。

五月二十二日 丁丑 金曜 晴。

早起。墓参して帰。課業例の如し。来客、横川光子 御礼に来る、跡見玉枝。

発信 土井早苗え書及小包物。

五月二十三日 戊寅 土曜 晴、風。

早起。散歩して帰。午下二時より、毛利公爵邸に詣す。安子様、万子様、西園寺新様も御出にて閑話する。御本殿より御迎ひ来り、公爵様御夫婦及若様にも御目に懸り、種々御咄し共申上、若様の敏明なるにかんし入、毛利家の繁栄を祝し候。御夕餐を戴て帰。帰途、小早川様を(問ひ、)御夫婦と御面晤を得て已而帰。時八時半。愛国婦人えは欠席す。重威房州より帰京す。

摘要 愛国婦人会第七総会。毛利公、午下三時。

*かんし(感じ)

五月二十四日 己卯 日曜 晴。
早起。散歩して、五軒町に行。重たけ久々にて面会す。朝飯を饗せられる。已而帰、揮毫す。

五月二十五日 庚辰 月曜 晴。

朝四時、直裏の家火あり。困雑す。風もなくて已に沈火す。予散歩して帰。午下より、金沢松右衛門氏を問ふ。千田勇子も居られ、主人、軸物二十幅を出して観せたり。予に画を乞れ、紕地二幅持帰る。四時偕行社に行。閑院総裁宮、東伏見良子殿下、梨本いと子殿下、其外地方支部長等を招く。立食済て帰。

摘要 愛国婦人茶話会、午下四時。偕行社行。

*困雑(混雑) *沈火(鎮火)

五月二十六日 辛巳 火曜 晴。

朝七時より紀尾井町井伊子に集る。愛国支部長等と共に九時、東宮御所拝観す。実に夢にも見たる事なき結構にて、東洋第一と云。美術の模範、善尽し美尽せり。二時間之拝観なり。畢而帰。午下、安田氏、福田氏を問て帰。

受信 唯専寺より豆及書至る。

摘要 東宮御所拝観。

五月二十七日 壬午 水曜 雨。

課業例の如し。揮毫ものす。

発信 唯専寺書をよす。

五月二十八日 癸未 木曜 雨。終日雨不止。

地久節休業。朝五時之夢に、月の天より落るを觀て予泣てやます。其声に睡覺たり。散歩して帰。午下、閑院宮様に詣し、拝謁す。暫時御談話、御八ツを戴て帰。

摘要 午下二時より閑院宮様え参る事。

五月二十九日 甲申 金曜 曇。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

受信 土井早苗。

発信 閑院宮様え。

五月三十日 乙酉 土曜 雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、大坂跡見法専来、初対面す。重威も呼に遣して来る。段々談話も致したるに、殊の外の人物、先々唯専寺委持も出来候やとて少しは安心致

し候。此夜一泊す。

*委持(維持)

五月三十一日 丙戌 日曜 晴。
法専子、午下六時出立。七時汽車にて帰。

(六月)

六月一日 丁亥 月曜 晴。
朝、散歩して帰。十二時、酒井鏐子三十日祭二付、応招、神前参拝。

六月二日 戊子 火曜 晴。
朝六時半より、新橋二行、総裁殿下山口県に御台臨御出発、奉送致して帰。課業例の如し。
来客、松井増子。

六月三日 己丑 水曜 晴。
朝、散歩。課業例の如し。

六月四日 庚寅 木曜
朝、散歩。課業例の如し。
発信 御寺御所、岡山津田え小包出す。

六月五日 辛卯 金曜 晴。
朝、散歩。課業例の如し。

六月六日 壬辰 土曜 晴。
朝、散歩して帰。午下早々、予、正子と目白学修院二行。寄宿寮新築落成二付、生徒父兄
与参観をゆるさる。尽く拝見す。すへて準備整ひて結構至極也。広大可驚。六時帰。来客、
浦四三子、藤井瑞枝。

*学修院(学習院)

六月七日 癸巳 日曜 晴。
朝十時出門、高輪御殿御機嫌を伺ふ。本日ハ芝離宮に於テ北白川宮御宴会にて、御用懸細
川子に逢て帰。宮島氏二行、盛子病を問ふ。昼餐を喫して帰。麻布御殿を伺ひたれて(マ
マ)、同しく芝離宮え成らせられて、老女に逢て帰。大倉喜八郎を問て東伏宮様を伺ふ。両

殿下に拝謁、久々にて五時頃迄にて去ル。

六月八日 甲午 月曜 晴。

朝、散歩して帰。午下二時前より、雨雷鳴。已而晴、一天如拭。予、三時より、中井敬所を訪ふ。暫時にして雨又雷鳴甚、其上雹降出し、音甚。大イサ如桃、直計一寸五部、未曾有の大雹、可言奇。印章ヲ依頼して帰。帰途、酒井伯を問ふ。近藤氏に逢て帰。降雹、青山、麻布辺、大イサたどんの如し。咄の種也。

*直計(直径) *五部(五分)

六月九日 乙未 火曜 晴。夜雨。

課業例の如し。来客、石山吉子、伴子。

発信 廃兵院長之承諾状出。

六月十日 丙申 水曜 晴。夜雨。

朝、散歩。課業例の如し。朝、鶴子より書至。青山神代娘死去のよし二付、午下早々、正子青山神代え御悔に行て帰。来客、石山基陽。受信 神代鶴子より書至。

六月十一日 丁酉 木曜 晴。

入梅。課業例の如し。

六月十二日 戊戌 金曜 晴。

朝、散歩。課業例の如し。

発信 神戸神代え端書出す。

六月十三日 己亥 土曜 雨。午下、雨止晴。

午下、泉会。講師片山国嘉博士、酒のはなし。予、三時過より司法大臣千家茶話会ニ参集す。日晡帰。

摘要 午下三時、司法大臣千家男茶話会。

六月十四日 庚子 日曜 晴。

朝、散歩して帰。午下二時より、巢鴨宮本氏を訪て、直に廃兵院開院式ニ会す。式畢而廃兵療舎縦覧す。庭園広大結構無限、是にては廃兵の満足限りなし。六畳、床コタツ在り。一間一人ツ、又八畳も其通り、一間一人ツ、新築にて十分也。余興、二、三番、食堂ニ入。此時、雨降出したり。五時帰。来客、岩倉久子夫人。

摘要 東京廃兵院開院式、午下二時より。

* 廢兵療 (廢兵寮)

六月十五日 辛丑 月曜 晴。

朝、散歩。墓參。課業例の如し。午下四時より、予、桃子と同しく東五軒町角田氏の招ニ応ず。外来客、河津氏、大島氏、渡辺三未亡人、佐々木政吉氏細君と也。主人の案内にて、先玄関より応接間之物数奇、居間、茶の間、小供たちの間、或ハ書生、下婢、湯殿、下座敷より二階ニ上ル。大広間、襖ハ皆雲形銀砂子、縁座敷付、眺望西南東北、月花にも尤も妙也。広間にて御茶。其好みを得たる、主人の辛苦思ふへし。善尽し、美尽せり。来客も主人の始めての鞋ぬきたる恩人のみと云。昔咄しにて面白く、下座敷にて晚餐、卓の上にて大ゐに楽しく、夜十時帰。

六月十六日 壬寅 火曜 晴。

朝、散歩。課業例の如し。午下二時より、麻布御殿に参る。野村子の不在にて、西三条伯と暫時咄して野村子を問ふ。主人に面談、寄附を願ふ。此邸の結構に驚かざるはなし。御庭の樹木等、此度佐々木伯に売渡したると云。実に惜しみて猶あまりあり。暫時にして帰、九条様を伺ふ。恵子様と種々物語して、閑院宮様を伺、御息所拝謁して帰。時ニ夕たち雨降。

受信 山形石沢氏より桜も、三箱着。

六月十七日 癸卯 水曜 午下雨。

朝、散歩。課業例の如し。来客、酒伯御使久松氏。

受信 バークレ栄子より端書着。

六月十八日 甲辰 木曜 午下雨。

朝、散歩。課業如例。来客、戸田伯夫人。秋田千田氏より提藍着。

受信 群馬秀島行成、宮本小一、書至。

* 提藍 (提籃)

六月十九日 乙巳 金曜 晴雨。 83 (度)。

朝、散歩。課業例の如し。始めての暑さ堪かたく。

受信 木津法専より。

六月二十日 丙午 土曜 雨。

課業例の如し。午下、浅草本願寺に参詣す。御法主御親教あり。今一座、外の僧の説教。畢而帰。帰途、中山幸子及田村氏を問て帰。大雨雷鳴、忽表門出水、河の如し。下水鉄罐の大工事、少しもなし。ナンノ事ぞや。

*ナン(何) *工力(効力)

六月二十一日 丁未 日曜 晴。

散歩して帰、揮毫ものす。来客、田中源太郎細君及作子、峰子、静江卒業の御礼を伸ふ。五時半、桃子横浜三溪より電話にて、今直ニ来れ、菖蒲盛、謙倉宗演師今夜説教アリとて、直に六時四十分汽車にて行。八時半頃、三溪に着。梅林茶室に一泊す。山紫明眉之風色、得もいはれぬ思ひ、鞋声水流、心と共に清し。

*鞋声(蛙声)

六月二十二日 戊申 月曜 細雨。

朝餐後、散歩して菖蒲園を見る。其広き事、実に案外也。已而馬車にて、桃子と同しく去る。九時、停車場に桃子と別れて、茂木氏を問ふ。午下二時の汽車にて帰。

六月二十三日 己酉 火曜 雨。

課業例の如し。午下大雨、盆を覆す。

受信 跡見法専書至。西沢氏より果物着。

六月二十四日 庚戌 水曜 晴。

散歩、課業例の如し。午下、堀田氏研究会に行。五時帰。

六月二十五日 辛亥 木曜 晴。夜雨。

朝、散歩。課業例の如し。午下、浅草本願寺に行て、御法主御不在にて、大草氏に逢て、唯専寺開基より由緒之事申入ル。金貳百円を予か手もとより献呈す。

発信 唯専寺法専え書をよす。

六月二十六日 壬子 金曜 雨。

課業例の如し。揮毫ものす。

六月二十七日 癸丑 土曜 雨。

課業例の如し。揮毫ものす。来客、石山すま子、謡四番うたふて帰。

六月二十八日 甲寅 日曜 晴。

朝散歩して帰。揮毫ものす。浅草大草氏より書至。直に木津跡見え電報出す。返電来ル。明日書類出ス。

受信 大草氏より書至。

六月二十九日 乙卯 月曜 雨。

課業例の如し。木津法専四時来。寺の歴史書類持参す。重威も来り、相談す。
発信 大草氏え書出す。木津より電報ニテ、今午後三時新橋着。

六月三十日 丙辰 火曜 晴。

課業例の如し。午下、重威も来りて寺の歴史も出来、直に浅草本願寺え電話にて伺候処、
明日新門様御東上ニ付、郵便にて差出すべく様ニ付、法専今夕七時三十分汽車に(て)帰
坂す。
発信 本願寺(え)歴史書出す。

(七月)

七月一日 丁巳 水曜 雨。

課業例の如し。司法大臣官邸ニ学校拡張ニ付、原、田村、欠席。其外一同、桃子、石山、
水上、集会、此後ノ(以下記述ナシ)
受信 木津唯専寺門徒世話方一同より書至。

七月二日 戊午 木曜 雨。

課業例の如し。
受信 木津法専書至。

七月三日 己未 金曜 雨、晴。

課業例の如し。来客、増田浪江、三宅竜子。尾畑勝女四十九日。

七月四日 庚申 土曜 雨。

課業例の如し。予、泰、弘、石山、四人連にて東京座救質慈善劇を観る。十一時帰。
受信 唯専寺法専書至。

*東京座救質慈善劇(東京座救恤慈善劇)

七月五日 辛酉 日曜 曇。

樗会、午前十時始り、大和田先生着席、研究五年集会す。午後五時畢。桃子、横浜より九
時帰。予、午下六時、上野精養軒ニ行。珍田、林、伊集院、山座夫妻を招待、送別会催さ
れたり。東洋婦人会会長鍋島候、小笠原伯、晚餐会九時帰。珍田、林氏不参也。重威帰房
す。

*鍋島候(鍋島侯)

七月六日 壬戌 月曜 曇。

本日より半日授業とす。課業例の如し。児島惟謙氏、去ル一日逝去されたり。石山氏を弔詞に行(かせ)、金三円香料を備ル。

七月七日 癸亥 火曜 曇。

朝、散歩。課業例の如し。本願寺より午前十一時迄にと云電話にて直に参る。御法主に拝謁す。今般之懇願ハ本山之順序も有之、願之通取立る訳ニも参らす、唯専寺ハ特別之由緒も有之、是ハ花蹊え対して式等副助音院に取立候と仰られ、仮免許状も被下、追而御帰京之上、本許状可被下様と云々、実に難有事と存候。寺格三段昇級いたし候。予より、午下、伊藤静江夫婦、此度独乙え赴任ニ付、暇乞に行。それより鳥尾子ニ問ふ。学校拡張ニ付、相談を願ふ。速に御承知下され、夕飯之饗を得て、八時半帰。

七月八日 甲子 水曜 晴。

朝、散歩。課業如例。皇后陛下、盲啞学校行啓あらせられる。午下一時半、わか塾生一同、御道筋に出て奉迎す。御還啓之節も同様奉送す。来客、山内八重子様御附人来る。昨七日、研究生八名え号命す。

発信 朝、木津唯専寺(え)書をよす。

摘要 午下二時より山内八重子使来る。

七月九日 乙丑 木曜 晴。

課業例の如し。午下、大炊御門家政様、明後十一日、北海道え旅行ニ付、御暇乞に行て帰。発信 唯専寺より電報、ホンモウトゲタアリガトウ。

七月十日 丙寅 金曜 小雨。

散歩。課業例の如し。午下、余、正子と買物ニ行て帰。鈴木知言、島田三郎氏実兄之葬式に会葬す。石山代理す。

発信 唯専寺より。米国栄子より、六月二十三日夜出す。

七月十一日 丁卯 土曜 晴。

課業例の如し。泉会、島地氏講話。

発信 唯専寺鼈味噌小包着。

発信 鼈味噌小包にて房州え出す。書をよす。

七月十二日 戊辰 日曜

雨、大雷。

七月十三日 己巳 月曜 晴。
課業例の如し。

七月十四日 庚午 火曜 晴。夜雨。

朝八時より、車を馳て芝増田氏に行。学校相談役を頼む。星野恭三郎を問ふ。花子二逢ふ。其令兄錫氏にも依頼す。千家男を問ふ。橋本太吉氏二行。昼飯を饗せられる。三条家、松井氏、閑院宮二詣して、両殿下に拝謁して、北白川宮に詣して、君様二拝謁して、中村元嘉氏、島田氏を問て帰。六時也。十軒を訪問す。夕、基陽氏来られる。内閣更迭。桂侯総理大臣、寺内外務兼、斎藤、平田、大浦、小松原、後藤、岡部氏。

*桂侯(桂侯)

七月十五日 辛未 水曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。来客、清水初、鳥尾智勢子。
発信 博文館え生徒之書出す。

七月十六日 壬申 木曜 雨。

課業例の如し。朝より大雨。表出水、川をなす。来客、日下田実氏、千代子退塾願出、本日より兩人共帰省。

七月十七日 癸酉 金曜 晴。

課業例の如し。

七月十八日 甲戌 土曜 晴。

課業例の如し。今津氏、安田善三郎氏え行て、相談役をたのみ入る。已而帰。来客、安田暉子、別府静子。午下、塾生娯楽会ニテ、生徒の活人画、喜劇とにて面白く、梗桔やだん子、団子坂の菊煎餅、名代もの。余興畢而、軍動場にて、御むすひ、焼豆腐、いんけん、ジャガ芋、フウカデン、煮貫玉子、ラムネ一本ツゝ。生徒の楽しみ極みなし。九時めて度畢。

*梗桔(桔梗) *軍動場(運動場) *いんけん(隠元) *めて度(目出度)

七月十九日 乙亥 日曜 雨。晴雨定まらず。

朝、墓参して帰。正午より薫風会。青松寺え参詣して五時帰。
発信 米国栄子え書をよす。

七月二十日 丙子 月曜 晴。土用入、始めて暑さを覚える。

課業例の如し。来客、斯波熊子。
受信 跡見法専より書至。

七月二十一日 丁丑 火曜 晴。
課業例の如く畢る。授業納めをなし、生徒一同運動場に集めて告別をなして皆退去ル。塾生も午後早々帰省す。天気もよく、すへて好都合也。
発信 神戸鶴子え。木津法専え。

七月二十二日 戊寅 水曜 雨。
朝、雨中ながら墓参して帰。揮毫ものす。来客、小西庸子、平田貞子。本日午前十一時、姉小路延子、女子姍婉、頗り健。桃子、朝より方々え暑中伺二行、夕景帰。

*姍婉(分婉)

七月二十三日 己卯 木曜 雨。晴雨不定。
朝、散歩。五軒町大炊御門暑中尋問す。姉小路に行て、出産なる御子を見る。よき御姫にて安心。絹本一枚揮毫す。及書写す。来客、観世勝子、岡崎忠子。

七月二十四日 庚辰 金曜 晴。
朝、散歩して帰。揮毫ものす。紙本一枚山水画書写す。

七月二十五日 辛巳 土曜 晴。90(度)。
朝、散歩して帰。揮毫ものす。

(七月二十六日〜二十八日、記載ナシ)

七月二十九日 乙酉 水曜
発信 暑中見舞九軒え出す。

(八月)

八月一日 戊子 土曜
微恙にて臥。
発信 土井氏、御寺御所、遠藤氏、小包出す。

八月二日 己丑 日曜 晴。

朝より所々え贈り物す。来客、閑院宮御息所の御使たね女、白精好御帶水墨画、表芙蓉、裏薄の御好み也。来客、賀田菊子、久々にて対面す。同氏別荘西之宮公園にあり、祖母も居り候二付、是非々々神戸に御出あらは車を寄せられ度と申され候。発信 御寺御所、土井氏、遠藤氏、書をよす。其外十軒え。

八月三日 庚寅 月曜 晴。

早起。御帶、揮毫す。午下三時、落製す。夫より神戸行仕度にかゝる。五時半出門、予、弘と二人同行。見送り人、正子、泰、石山、中村芳子。新橋六時半急行二乗す。此時、神代え電報す。炎熱如焼。十二時頃より、乗客様々のなりして眠に付く。予ひとり、スケッチをして独笑限りなし。

さま／＼の夢をものせてはしるらむ夜汽車ハ今や静岡わたり

八月四日 辛卯 火曜 晴。

浜松にて夜ハ明たり。垂井暁色、遠近写生して朝の心地よし。午前九時、三の宮に着。車にて灘味泥村神代氏に着。夫婦の喜ひ限りなし。郁之進ハ夫より社に行て、四時頃帰宅。湯に入てつかれをやすめて、夕景より夫婦之案内にて、神戸市中楠公社に詣て、港川及所々見物す。神戸商業之發展、実に盛也と云へし。十時、帰り臥。神代氏の住居ハ二階造り、東西南北に風通しよく、北正面摩耶山、六甲山嵐にて清風吹通し、南ハ灘の海の風にて、実に夏しらぬ涼しさ、是第一の馳走也。

八月五日 壬辰 水曜 晴。

朝、東京え書をよす。九時頃より夫婦の案内にて布引の滝を見る。画囊を出して写生して、雄滝えは登らす。此滝や近頃水道を引たるとかや、大に雅地を失ひ、可観もなけれど山は元のまゝなると。此辺りの朝日館にて昼餐を喫す。夫より米利ケン波止場に行。栈橋会社持船なる錦丸に乗して一時出帆。此船中之涼しさハ別もの也。船行まゝに、須磨、塩屋、垂水、舞子、淡路、厳、絵島、大絵島に繫船、休憩す。真に画の如し。すもしなとあ(つ)らへて、又スケッチをとりて、又船に乗して淡路島を廻り、明石二着。こゝより錦丸を帰して上陸、明石趾及市中をみて、明石停車場より汽車に乗して舞子着。松林中散歩して舞子焼物を買ふ。亀屋にて夕餐を喫す。こゝも涼客大繁昌、涼しさ限りなし。又汽車にて神戸着。夕月清く涼風爽快。車に、又電車にて帰。時、十時過。二泊。明日ハ何れえも行かぬとの心組也。

*雅地(雅致)

八月六日 癸巳 木曜 雨。

此日ハ何れえも行かぬと期したるに、朝よりの雨にて好都合、喜雨と云へし。東京え書をよす。須磨の浦にて端書に真景移して、

かり衣をかけしハこゝかこの松かすまの浦はの月にとはゝや
海士少女くみ上たるハこの月かすまの浦はのむかしなつかし

この日の新聞にすまの新名所、

女官青木掌侍か父、神戸の歌人清高の女、松浦辰雄氏ハ女官の歌の師なるを、須磨寺に問ひて、此名なしの松を発見して、この度来遊の記念として此松に名を与へよと乞
けれハ、辰雄、

今日よりハ琴柱の松とわれ呼はん調へをそへよすまの浦風

おのれも、

浪のつゝみ音にたてゝうてすまの浦琴柱の松の名にも出てたり

*移して(写して)

八月七日 甲午 金曜 晴。

朝六時起て、昨夜よもすから雨降りしきりたると思ひしに、空ハ全く晴渡りて、いかなれは、この窓の下、清水流るゝ瀬の音也と、けふハ元町わたり散歩して買物などと思ふと、鶴子ハ天気予報博士と云か、まだ雨は晴れませぬと云。暫時にして雨降り出したり。終日風も添て、夜に入、暴風雨と成て、家も動く位甚しく、十一時頃、雨も風も全く止、静かに成りぬ。

八月八日 乙未 土曜 晴。

朝五時起。東の窓に寄りて、天朱をそゝくか如く、昨夜の風雨ハ跡もなく晴わたり、日の登るを観る。北窓より摩耶の風眉を写し、午前十時より散歩して、ヨリエンタルホテルに行。夫婦の案内也。実に立派、驚くへし。午餐を喫して後、屋上庭園に休憩す。畢而所々買物して帰。桃子より書至。

八月九日 丙戌 日曜 晴。

弘、朝七時二分の汽車にて京都見物に行、六時帰。皆夕餐後、浜に出て灘の月を観る。五十年前、此若林に客と成りて、四月十五夜の月、海上に金波を浮へたる、今宵十三夜の月影、旧の如し。砂上に敷ものして、涼風快又快、十時帰る。帰京の準備も齊ひて、心地よく臥。

八月十日 丁酉 月曜

朝四時起。細雨。今一日滞留をと進めらるゝ。涼氣尤好、其内空晴れたり、決然出立す。神代夫婦、何くれとの深切、たゝ感し入たり。停車場迄送り来り、万事都合よく、三ノ宮七時四十七分、結別して発車す。昼頃より、晴雨不定と云空模様となり、所々の山水明眉、

面白く雲のかゝりて、画囊をひらき、しきりにスケッチして行。琵琶湖辺、殊に絶妙。富士にしら雲のかゝりたるを写生して、

いつハあれとこの白雲の面白くかゝるふしこそ珍らしきかな

今宵待宵の月清く、九時新橋着。泰、石山、迎に來たりて、無事帰着。一同大悦ひ。十二時迄物語りして臥。

*結別（訣別）

八月十一日 戊戌 火曜 雨。

終日雨。不在中、もゝ子の丹情にて、庭も居間も奇麗に掃除行届きて心地よし。

発信 神代え礼書出す。

*丹情（丹精）

八月十二日 己亥 水曜 雨。

揮毫ものす。

受信 神代鶴子より書至。

八月十三日 庚子 木曜

早朝、泰旅行す。予、揮毫ものす。

八月十四日 辛丑 金曜 晴。

奈良坂学士よりの絹本小切二枚、林静夫の絹本画帖もの四枚、揮毫す。来客、常陸国鹿島郡根本寺小川義堂、田島春子、葉室後室、山田幸子。津田弘仲氏、帰国二付、弘、新橋迄見立る。

受信 訃音、上野幾子。閑院宮三殿下より御書賜はる。

八月十五日 壬寅 土曜 晴。

朝五時、桃子、橋本絶、二人連にて房州へ出立す。揮毫ものす。来客、浦四三子。正子、落合村長尾え行、夕景帰る。泰、大東より帰宅す。午下二時。午下二時頃より、雨降り出し、雷鳴はけしく。予、早朝より墓参して帰。

*橋本絶（橋本艶）

八月十六日 癸卯 日曜 晴。

朝より（以下記述ナシ）。沢宣良、帰国す。

発信 上野景明え弔詞。

八月十七日 甲辰 月曜 晴。

朝四時起。泰、六時汽車にて大東岬へ行。来客、宮原六之介。

八月十八日 乙巳 火曜 雨。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。来客、荒井新子、絹本画三枚渡す。時事新報社員、姉小路野中とよ。

受信 米国津田栄子より書至。房州もゝ子より。

八月十九日 丙午 水曜 晴。

朝、墓参して帰。仁科駒女来、一泊す。

受信 能登国栗倉一子、書至。

発信 米国津田氏え書出す。

八月二十日 丁未 木曜 晴。

朝四時起。老松写生二行。裏松子門前に枝ふりよき松有て、写生して、裏松子を問て帰。仁科駒女婦。弘、落合長尾え行、雄同道して帰。靖子、早苗、大炊氏え三日間とまりかけに行て、石山基弘子と共に帰。此夜、みな一泊す。

受信 神代より、足袋、半かち、小包にて着。栗倉一子より硯箱着。

八月二十一日 戊申 金曜 晴。

朝、散歩して帰。基弘子、迎ひ来て帰。来客、長尾数子、朝より来りて午下四時半帰。

受信 房州もゝ子より、はかき二枚着。

発信 能登栗倉え書をよす。

*はかき(端書)

八月二十二日 己酉 土曜 晴。

朝六時半、出門。御所御内儀に参り、良子様と久々談話。九時過帰。来客、岡崎忠子、浦後室。弘、雄を送りて落合村え行て帰。

八月二十三日 庚戌 日曜 晴。風甚し。

朝より揮毫ものす。本日より、安原氏、事務員に属托す。

発信 房州もゝ子え書をよす。神代氏え菓子小包出す。

八月二十四日 辛亥 月曜 雨。

雨にて、始めてすゝしさ覺たり。十時頃より大炊氏え留守見舞に行。また姉家えも問て、午下三時頃帰。

八月二十五日 壬子 火曜 雨。
雨にて揮毫出来ず。午下早々、曙町佐野男を訪ふ。後室新子様大悦にて、おきせさまも共に種々かたりあひて五時帰。

八月二十六日 癸丑 水曜 晴。
朝また雨止す。予、靖子、早苗をつれて中黒え行、撮影して帰。雨晴たり。
発信 神代え小包出す、端書。大坂跡見え書をよす。

八月二十七日 甲寅 木曜 晴。
朝より揮毫す。来客、下瀬細君。午下八時、桃子房州より帰宅。弘、迎ひに行。

八月二十八日 乙卯 金曜 晴。85(度)。
八朔。朝より揮毫す。来客、森律子。午下六時、泰、石山帰。

八月二十九日 丙辰 土曜 晴。85(度)。三時頃より細雨降り出したり。
朝より、旭川額面松旭日之図落製す。来客、伊藤とく女、山形県鈴木峰江。

八月三十日 丁巳 日曜 晴。
朝、散歩して帰。帰塾、中村芳子、妹林和子を連れて入塾す。

八月三十一日 戊午 月曜 晴。85(度)。
早起。石山氏を問ふ。此度移転の平川町。暫時にして帰。暑さに堪かねたり。泰、太東より帰り来る。帰塾、橋本つや子。

(九月)

九月一日 己未 火曜 二百十日。風少しもなし、可喜。晴。
早起。仏参して帰。午下より少々雨ふり出したり。来客、久々に山片きく、朝より夕方迄。太田浪、帰塾す。
受信 佐野新子、菓子。

九月二日 庚申 水曜 晴。
朝、散歩して帰。姪重子廿七回忌二付、祭祀を行ふ。供養一同え手製のすもしを出す。絹本一服揮毫す。

*一服(一幅)

九月三日 辛酉 木曜 雨。

終日、細雨。書写のみ。

九月四日 壬戌 金曜 雨。

朝より書写のみ。桃子、島田、角田氏え行。台所井戸替して、桶悉皆新らしく入替て、清水湧出る。

九月五日 癸亥 土曜 晴。

朝、千家男を訪ふ。男爵及奥様信子様にも談話致して、皇族様方えの趣意書御承知に相成、已而帰。閑院様に詣し、両殿下に拝謁して、御昼餐戴て帰。帰途、高倉寿子様を問ふ。久々にて、ゆる／＼と御咄し申上て帰。隣家なる石山氏を問ふて帰。

九月六日 甲子 日曜 晴。

朝より塾生続々帰塾する。六十八人。来客、一勢。朝、中黒呼て、家内一同撮影する。

九月七日 乙丑 月曜 晴。7(ママ)(度)。

授業始をなす。新入学生四人。来客、玉枝。玄関前井戸替して清水出る。

九月八日 丙寅 火曜 晴。65(度)。

朝、散歩。善光寺参詣、御朝事に逢て帰。課業例の如し。来客、清国駐日本公使館参贊大理院推事張元節、旧三十年清国公使何如璋男何寿朋、其従弟何氏、三人来りて、張氏娘張志俊、年十四歳、浙江人、是非入塾願望、承諾を乞れ、来四十二年四月迄待て、是非々々、校長に懇願すと云。来客、角谷六一氏、山腰氏同道、天下一品物、其外種々みせられる。旭川衛戍病院長え額面、汽車便にて出す。

発信 灘神代え書をよす。

九月九日 丁卯 水曜 晴。65(度)。

課業例の如し。訃音、武者小路公共長女芳子、七日午後五時十分死去のよし、申来。午下、武者小路家に行、弔詞を伸ふ。実によく御肥満にて、何共可愛らしくて、とても葬ハ出来ましくおもはれて、只々涙のみ。しはらくして帰。夜、月光。月見かてら散歩して、善光寺え参詣。説教も地藏踊もありて、講中に留られて、八時過帰。予、李子と同行。志賀鉄千代来る。来客、河内長野村人吉年忠三郎、悻と二人。予、不在ニ而不逢。

九月十日 戊辰 木曜 晴。79(度)。

課業例の如し。来客、善光寺保存会専務理事原山太吉、善光寺寺務職林市三郎、兩人面談す。保存会賛成を乞れて賛成す。来客、荒井艶子。

九月十一日 己巳 金曜 二百廿日。無難、可喜。晴。

課業例の如し。弘、学習院入寮す。尾張屋銀行悴某、米国え出發二付、菓子と家庭の写真事伝る。来客、佐野御隠居久々にて来られ、種々の咄しにて、夕景帰られる。受信 米国より写真数葉着。

九月十二日 庚午 土曜 雨。

午下一時より、泉会執行。河津博士、家事経済演題にて講演。本日珍らしき古生徒来る。桃子ハ葉室氏の別杯にて中立す。

九月十三日 辛未 日曜 雨。午下、晴わたる。

朝より觀世会见物する。予、正子と同行。五年振の能をみる。切のとほるを残して、姉小路及大炊氏を問て帰。朝、河内長野村吉年忠三郎氏来り、五十年振りの昔し語りする。吉井家の様子も聞く。明日、帰国のよし也。

*とほる(融)

九月十四日 壬申 月曜 朝、雨のち晴。あつし。

課業例の如し。揮毫す。此夜より夜学をはじめむ。

発信 神代え書をよす。

九月十五日 癸酉 火曜 晴。76(度)。

朝、墓参して帰。課業例の如し。揮毫す。来客、大炊御門家政君問はる。

九月十六日 甲戌 水曜 晴。76(度)。夕景より雨ふり出したり。

課業例の如し。揮毫す。

発信 紀州和歌山高橋元蔵え画出す。

九月十七日 乙亥 木曜 晴。

課業例の如し。揮毫す。

発信 米国津田え書をよす。

九月十八日 丙子 金曜 晴。

課業例の如し。原春子稽古す。予、午下一時之汽車にて横浜二行、原氏より迎ひの車にて茂木良太郎病氣を訪ふ。追々快方之赴にて安心す。夫より三ノ谷に行。主人安子も久々に

て大に喜び、梅林の秋草を見る。今を盛りと咲きみたれたり。秋の千種の大方を植たる園にて、足らぬと云事なし。色の配合もよく、紫苑、女郎花、薄の長き短かきもよく取合せたり。綾も、錦も、から紅も、何にたくふへきやらむ。此頃しつらへたる横笛堂、殊に位置も尤妙也。其奥に行ハ田舎家あり。いろりジザイにて湯を湧し、雑煮を客に出すといふ。其向ふに田舎の食堂あり。皆数寄を究めたり。待春軒に茶菓を喫し、又観月亭にて夕餐を喫して、夜虫の音を聞きつゝ、十時頃まで語り合ひ、こゝに一宿す。別天地、深山の如し。

*赴(趣) *ジザイ(自在)

九月十九日 丁丑 土曜 雨。晴雨不定。夜十二時頃より、風雨すさましく、三時頃晴。早起。千種の露のしけみを分つゝ散歩する。海岸にも、御谷館に休憩しつゝ、いつもながらの爽快を賞し、観月亭にて朝餐を喫して、談笑不尽。十時過、誥別して、馬車にて十一時の汽車にて帰。此日、角田夫婦誘引の筈、俄に不参申来る。来客、武者小路万子。

九月二十日 戊寅 日曜 晴。

来客、重威、及玉枝、三次郎悴勝雄を拉して来。正午より、桃子と同じく芝薫風会二行て四時帰。

九月二十一日 己卯 月曜 晴。

朝、散歩して五軒町を問て帰。本日より、午後二時迄の教授とす。課業例の如し。午下早々、堀田伯会日二付、参集す。五時帰。正子、岡崎国良子病氣見舞二行。大炊御門師前病氣見舞二行て帰。

発信 神代え書をよす。

九月二十二日 庚辰 火曜 晴。

課業例の如し。墓参して帰。

九月二十三日 辛巳 水曜 晴。

天晴朗、秋季皇霊祭。祖先祭典執行す。午後、家内生徒一同えも手製すもしを出す。来客、重たけ。

九月二十四日 壬午 木曜 雨。

課業例の如し。志賀先生地理講話アリ。来客、閑院宮御息所の御使たね女。

九月二十五日 癸未 金曜 雨。65(度)。

課業例の如し。桃子、正子、三ノ谷え秋草見の約束したるか、雨にてやめたり。

受信 木津跡見より書至。書及絹地。

九月二十六日 甲申 土曜 晴。

彼岸結願二付、予、正子、早苗と同じく浅草別院に参詣して、大草氏を訪て墓参す。夫より、重太郎、茂子の墓参して散歩。公園をぬけて東橋より汽船に乗して、小松島より陸、百花園に秋の千種をみる。花も少しあせたと、花見る人の織か如く、雑沓を究む。園中の座敷に坐して花をみるうち、仏国大使御夫婦来られて、早苗を可愛らしくとて、貌をなて手などをキツスして、艸花をもくれられ、暫時あそびて、御夫婦手を握りて挨拶されたり。こゝに休憩して、また散歩。隅田花壇に花をみる。こゝは西洋花を本としたり。こゝと問にて船に乗て、実に雑沓の中へ入たり。すると、こちらへと云人あり。立派なる夫婦二人連れ、夫人云、もし間違ましたら御免をとて、もしあなたハ跡見先生てすかと云。左様あなたハとなたてすと問ふ。私ハもと先生の学校に居りたる大沢市子と云。今ハ福沢市太郎の妻となりて子供もありとて、其市太郎氏も同道にて、挨拶。前年明治十年頃の生徒に出合て、是また奇遇と云へし。船は着たり、御互に後日を約して別れたり。

*究む(極む) *こと問(言問) *は入たり(這入たり)

九月二十七日 乙酉 日曜 晴。

午下早々、鳥尾子へ行。此般發起人婦人集会を華族会館ニ於テするに付、同子爵に頼みたり。

九月二十八日 丙戌 月曜 晴。

課業例の如し。

九月二十九日 丁亥 火曜 晴、後未曾有の雨となる。

課業例の如し。正子、李子、朝より横浜原氏行とて、予、代理する。八時出門。此時より、少し小雨ふりたり。終日の雨の(ママ)なる。三の谷行も雨にぬれつゝ、さそかしと思ふ。夜八時半、皆帰宅す。夜十二時頃より豪雨となり、予ハ本年雨料の多きを歎きて、天を祈る。終夜不眠。二時、夜廻りに出水なきやと問ふ。未たなきと云。先々安心。已にして二時半、三時頃より浩水あふれ出し、俄然全校舎水ひたしと成る。

*雨料(雨量) *浩水(洪水)

九月三十日 戊子 水曜 晴。

朝四時頃より、出入の者見舞に来る。予の居間ハ今一寸も水増したらは、畳も上る覚悟致し、道具諸類かた付る。下部部屋ハ一番に水にひたされたり。炊事場水にひたして瓦部共同様にて、飯を焼く事出来ず。カツポウ場の釜戸を湯殿え持来りて飯をたく。幾度となく焼き通し、漸朝飯をすましたり。通学生ハ往来絶たり。昼飯ハ、横浜原氏より御結び御にしめ百五十人前、車にて持来り、出入の手伝人えも出し、漸食事も安心となる。実に此水

害ハ、小石川廿一年のはしめ也。毎も出水ハ門前迄と究りたりしを、いかなる事ならむ。小石川巡查等ハ船にて見分す。

*カツポウ(割烹) *瓦部(斯) *焼く(焚く) *釜戸(竈) *焼き(焚き)

(十月)

十月一日 己丑 木曜 陰。

課業例の如し。入塾二人。新聞紙上にて水害に付、大惨害、所々の土手崩壊し、崖落ちて圧死、其上出火にて、焼死の者多く、実に其惨劇見る(に)しのひす。一家土中に埋没す。赤坂新町の惨劇、鳥居坂惨劇、高輪の惨劇、伊血子町同断。鮫ヶ橋同断。大豪雨と火事との此惨場をみて、水にひたされたる位ハ何てもなし。先々無事也。続々見舞の人々来る。電話如織。此朝に至りて、水ハ引たり。夕景より、また雨降り出したり。来客、姉小路良子使とよ女、戸田幾子。

*伊血子町(伊血子町)

十月二日 庚寅 金曜 晴。

朝、沢伯家失火、一軒焼失。課業如例。午下四時頃より、上野精養軒に晚餐会を催す。来会者、千家男之主催なるか微恙にて御断に相成、角田氏代理せらる、浦太郎、茂木、志賀、島田、鳥尾、増田義一、星野錫、原、宮原、橋本、今津、水上、石山、泰、予之十七人也。学校拡張ニ付、先委員の囑托を願ふ。皆承知す。協議盛也。十時全畢。

十月三日 辛卯 土曜 晴。

中島氏倫理講義、例の如し。予、風邪にて臥。

十月四日 壬辰 日曜 晴。

予、風邪にて臥。

十月五日 癸巳 月曜 雨、后晴。

午前十一時より、上野精養軒に午餐会を開く。来会者、斎藤仁子、志賀鉄千代、丹羽花子、鳥尾千せ、角田栄子、増田浪江、茂木栄子、星の花子、浦四三子、三宅竜子、千家信、原礼子、来栖貞子、安田暉子、美野部姑子、予、桃子、石山。午餐後、角田真平君来会。懇篤なる演舌ありて、一同感心す。三時過、退去。

*星の花子(星野花子) *美野部姑子(美濃部姑子)

十月六日 甲午 火曜 晴。

早朝、浅草大草氏に行、面談して帰。課業例の如し。

十月七日 乙未 水曜 雨、晴。

午前二時より、雨降り出したれと、塾生遠足の準備出来、雨を冒して出立す。朝六時十五分汽車乗おかれて、七時五十分にて行。予ハ風邪にて止。七時、皆々無事帰校す。存外面白く、あさりなど沢山に捨て帰。千葉稲毛海岸の遊び面白く、あさりなす(と) 沢山取て帰。

十月八日 丙申 木曜 晴又雨。

休業。午下早々、中山侯、松尾臣善、山尾子、中村元嘉氏、訪問して帰。

十月九日 丁酉 金曜 晴。満月殊清。

課業例の如し。

十月十日 戊戌 土曜 晴。

第二土曜泉会。箕作元八博士演舌。来会者殊に多く盛会也。来客、神津、田村彰子。

十月十一日 己亥 日曜 晴。

散歩して帰。四年生徒榑会歌合、朝九時より、午下五時迄。来客、武者小路万子、上海え近々出発二付、御暇乞。

受信 木津唯専寺より書至。

十月十二日 庚子 月曜 晴。

早朝、浅草大草氏え行、石原氏之書みせる。午下四時より、男女発起人会を開く。斎藤仁子、星野花子、鳥尾千世子、角田夫婦、浦夫婦、丹羽花子、原礼子、志賀鉄千代、宮原、橋本、中村元嘉、島田三郎、今津、増田義一、来栖貞、協義盛也。九時退散。

*協義盛也(協議盛也)

十月十三日 辛丑 火曜 晴。

課業例の如し。米沢縫子、病氣二付、保証人え帰す。

十月十四日 壬寅 水曜 晴。

五年生、日光遠足。朝四時出門。天晴、残月清光、実に羨まし。保護人、泰、桃子、石山、内海、大和田、小林鐘吉、井深氏おかれて行。課業例の如し。電報、午前十一時日光着。又電報、後七時中禅寺着、一同無事。先々安心。

十月十五日 癸卯 木曜 陰。

課業例の如し。午下二時頃、雨ふり出して、日光の山をあんしたるに、また雨晴たり。夜八時、上野着。此時、雨降り出し、困雑一方ならず。然し、一同無事。あんしるより草臥もなき様子也。

*あんし(案じ) *困雑(混雑) *あんしる(案しる)

十月十六日 甲辰 金曜 晴又 (空白)。

課業例の如し。

十月十七日 乙巳 土曜 神嘗祭。晴。

朝七時出門。新橋ニテ、閑院宮様ニハ此度御名代を蒙らせられ、御渡台御発途、御奉送申上る。八時御機嫌よく成らせられたり。仙台坂松方氏を訪ひ、正作様に御面談、一時間にして、千家男を訪ふ。暫時にして閑院宮様を伺ひ、午餐を戴て帰。酒井夏子様御一周年祭ニ付、参拝、夕餐を饗せられる。八時半帰宅す。本日米艦着のはつ(筈)、海路暴風雨に逢て、明日に延引之号外。来客、米国より帰朝明石豊雄氏、津田より届物持参。受信 木津跡見より電報。

十月十八日 丙午 日曜 晴。

朝、大草氏来る。本日、米国艦隊横浜上陸。歓迎、市中出来得る限りの準備と云。発信 早朝、木津跡見え書をよす。

十月十九日 丁未 月曜 晴。

課業例の如し。米艦隊、帝室え始而参内す。

十月二十日 戊申 火曜 晴。

課業畢る。午下早々、堀田伯研究会ニ出向ル。一時、御家令田村氏葬式を御門前ニて皆々見送る。午後四時、中座して、浅草中山幸子悔みに行、焼香して帰。

来客、大坂但間菊。

受信 小林覚子使、栗、シャツ一枚。

十月二十一日 己酉 水曜 晴。

課業畢る。午下早々閑院宮様え参り、御稽古申上て帰。来客、万里芳房、智子、栄と女中、夕飯を出す。七時頃帰られる。此時、俄雨ニ逢れ、大難義。傘をもたせ、はしらせたり。来客、松井増子。

十月二十二日 庚戌 木曜 雨、后晴。

昨夜よりの雨甚しく、課業畢而、午前十時より、芝妙定院ニテ、万里家三代前正秀男ノ御

親父之五十年回、直房君の一周忌法会ニ会す。午餐を進めらる。四時帰。米艦隊、日比谷公園ニテ園遊会ニ付、実に盛大々々。花火之打上ケ、群衆雑沓甚し。来客、太田豊子、御礼ニ来る。

十月二十三日 辛亥 金曜 晴。

課業例の如し。兼松氏え七子一反祝、松永道子え白羽二重一反を祝ふ。揮毫ものす。此夕、岡崎国良子、全快御礼ニ来られる。

受信 山形県 (空白) 健次郎より、★(木十璃一王) 子大箱着。

発信 島根県津和野町戊申会え小絹二書画出す。

*★(木十璃一王) 子(檜子)

十月二十四日 壬子 土曜

受信 米津田氏より写真二葉と端書一枚着。

発信 岩手県後藤長平え書画出す。

摘要 雨天順延、午前九時より陸上運動会。棚橋絢子。

十月二十五日 癸丑 日曜 晴。

朝十時より琴温習会始る。三曲面白く、生徒もかくハと思はざるに、殊の外上達して、午下四時畢。是迄聞き尽したり。

摘要 生徒温習会。午前十時より歌道奨励会第二回大会ニ付、靖国神社境内能楽堂ニテ開催。

十月二十六日 甲寅 月曜

早起。散歩して帰。課業如例。午下五時半より、予、桃子同伴、九段不二見軒に行。兼松習吉君結婚披露会。余興、筑風之筑前琵琶。食堂開らけたり。食事済て、千代香女之三弦面白く、又席上合作あり。すへて盛会也。九時帰。

受信 午後九時、大清欽差大臣胡惟德招待。

摘要 午後一時より、帝国海事協会事務所ニテ。午後五時半より、九段結婚宴会。

*不二見軒(富士見軒)

十月二十七日 乙卯 火曜 陰雨。

朝、散歩。課業例の如し。

十月二十八日 丙辰 水曜 晴。

朝、散歩。課業例の如し。泰、朝、拜島より帰宅。予、桃子、二時後より、上野美術電覽会洋画を観る。よほと進歩著るしき、感服々々。

発信 神代え書をよす。

摘要 愛国婦人会、午下。

*美術電(美術展)

十月二十九日 丁巳 木曜 細雨。

朝、散歩。課業例の如し。来客、松永道子 縁段二付、御暇乞ニ、東京日々新聞美術部担任川村文芽、西沢祖父。

(名刺1)

東京日々新聞美術部担任

川村文芽

仮居 京橋区南鍋町一ノ一林屋方

電話 新橋 二六三一番

*縁段(縁談)

十月三十日 戊午 金曜 小雨、後晴。

午下早々、堀田正養子を詞ひ、発起人を願ふ。中島孝行氏を詞ひ、発起人を頼依(依頼)す。角田氏を問て帰。又酒井伯を問て、伯爵に発起人を願て帰。此日午後四時、大坂唯専寺より書至。廿七日本山より本許状賜はる。其写し。

摂津国大坂市南区木津勘助町

大坂市南区木津勘助町

唯専寺

唯専寺

以特別、今般其寺定式等別

財務整理献金二付、其寺定永世別助音

助音地

地寺跡、左之通被成恩許候事

明治四十一年十月廿七日

但出願之上許可ヲ受クヘシ

寺務総長心得井沢勝什 印

明治四十一年十月廿七日

六藤袈裟紋

寺務、、、、、、、

別助音

同上

来客、視学大坂西成郡八木庄三郎、鎌倉佐竹音治郎妻。

摘要 本日午下一時より、帝国海事協会。

*詞ひ(伺ひ)

十月三十一日 己未 土曜 雨。

大坂木津、、 唯専寺住職

跡見法専

六藤五条袈裟

財務整理献金二付、其身一

代許著用

明治四十一年十月廿七日

寺務総長心得井沢勝什印

雨ふり通したり。九月のけふハ水害困（混）雜也。

発信 跡見法専え本許状及外二枚、書状と共に出す。

（十一月）

十一月一日 庚申 日曜 晴。

朝より神前浄めて祭りす、例の如し。墓参して帰る。終日画揮毫す。新年勅題、雪中松。

十一月二日 辛酉 月曜 晴。

課業例の如し。来客、兼松習吉氏、石山すま子。羽前岡村尚子より鴨一番、真綿着。

受信 神代鶴子より書至。

発信 大坂吉宗栄子え手本二冊出す。

十一月三日 壬戌 火曜 天長節。朝晴、午下雨少々降りて又止。

庭中運動場にて、天長節式場とす。朝九時、生徒一同整列す。始、君か代を奏し、教育勅語拝読す。桃子詔書を拝読す。天皇陛下万歳三唱、又跡見女学校万歳ニテ式畢。縫裁教室にて茶菓柿を出す。十一時全畢而退散す。午下八時半、出門にて外務大臣小村子夜会、官舎にて。予、桃子と行。客間ハ尽く、紅葉、菊にて、合天上すへて菊花の中に電氣にて、実に装飾の美々たる、極楽世界の如し。踊舞室ニ行、皇族殿下の御ダンス拝見。追々各国人のダンスありて、十一時、食堂開け、此堂ハすへて庭園の装飾爛熳たる桜花の大樹二カブの下に食卓を置て、さしもの広きを立錐の地もなく、四季の庭となしたり。予ハ十二時帰。

*縫裁（裁縫） *外務大臣（外務大臣） *合天上（格天井） *二カブ（二株）

十一月四日 癸亥 水曜 晴。

課業例の如し。午下一時半より、閑院宮御殿え参り、二時廿五分、殿下台湾より還御あらせらるゝに付。其内、弥還御、みけしき御うるわしく拝謁いたし、台湾の御咄し共同て帰。来客、中井敬所、御息所の御印持参せらる。

十一月五日 甲子 木曜 晴。

課業例の如し。来客、璋子母、万伯。歌道奨励会より、有栖川実枝子殿下、八日、徳川公爵家へ御降嫁在らせらるゝに付、祝歌献上。兼題、寄川祝。閑院宮御息所へ御印章さし上る。

十一月六日 乙丑 金曜 晴。午下、雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

十一月七日 丙寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。倫理講義を聞く。畢而堀田正養子妻玉女、一昨五日、頓死致され候二付、悔二行。帰途、大炊氏を訪て帰。

十一月八日 丁卯 日曜 晴。

朝、散歩して帰。終日揮毫ものす。来客、加藤幸子、加藤民子、藤瀬家内、大炊家政。有栖川実枝子殿下、御入輿あらせられる。

十一月九日 戊辰 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。主上陛下、大演習二行幸御発輿あらせられる。此度、摂河泉之地方、畢而観艦式御執行あらせらる。本日より、御還行迄の晴天を祈念する。

*御還行(御還幸)

十一月十日 己巳 火曜 晴。

朝六時出門、七時十分発汽車にて横浜二行。道行婦人方多数にて面白く行。税関ノ辺、海岸、新築、栈橋に繋きたる義勇艦隊第一船さくら丸、満艦飾にて見事也。十時、東宮殿行啓あらせらる。拝謁仰付らる。御乗艦十一時還啓あらせらる。奉迎送申上る。一同午餐弁当済て拝観す。スケツチして一時退散。岩上氏を問て、茂木氏二行。来栖を問て発起人を頼みて帰る。貞子、篤子、ブラツ―ホウム迄送り来る。四時発にて帰。

摘要 横浜入港さくら丸、拝観。横浜港内税関新築倉庫沿岸。

十一月十一日 庚午 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下閑院宮に参殿、御稽古上て帰。午下五時半より委員集会、角田君、浦氏、宮原、橋本、今津、水上にて、種々協義ありて、九時退散。

*協義(協議)

十一月十二日 辛未 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。志賀重昂氏。瑞典大探検家ズヴェン・フォン・ヘデン博

士、本日横浜着。

十一月十三日 壬申 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業如例。来客、午下二時、橋本、宮原君、学校之件二付、しらへ物にて夜十時帰られる。

受信 山形県岡村尚子より書至。

十一月十四日 癸酉 土曜 晴。朝、氷を結ぶ。

朝、中島氏講演聞て、正子と同道、電車にて上野美術協会二行。官設日本画展覧会を見る。大作物多、咸服之至也。又洋画を見て行。泉会、荻野文学士、歴史よりみたる日本婦人。中島君聖詔講義、いつれも感佩之外無之候。華頂宮大妃郁君殿下には、昨十三日薨去あらせられたり。

*咸服(感服)

十一月十五日 甲戌 日曜 晴。風甚し。中山孝丸侯二午下一時より。

朝、墓参して帰。午下一時より中山侯に上り、本日ハ新築御披露と御生母数子の七十七歳の御祝にて、皆々久々、お数さま、胤子さま、仲子さま、其外古るき御弟子たち取まかれて、前世界の様なる心地いたし候。丸一の余興アリ。御殿の結構さ、実に驚く計、くま拝見いたし候。立食にて八時半帰。

十一月十六日 乙亥 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、宮城え参り、良子殿御局にて種々御談話等にて、御合のものいたゞきて帰。汲泉献上、其外女官さまえもさし上る。

発信 山口県石川良平弔詞、山形県長井利右衛門。

十一月十七日 丙子 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業畢る。午前十時出門、志賀氏え行。本日瑞典国へデン博士と同行、大倉喜八郎氏之美術品を觀て、志賀氏宅にて午餐会。博士と新戸部夫人、徳富猪一郎、巖小波氏、外に八、九人会食、種々談話アリ。午下三時帰。帰途、酒井伯園中菊花を見て帰。午下六時より常務員集会、橋本、宮原、角田、浦君、水上、追々歩を進められる。

受信 神戸沖ニテ大觀艦式にさくら丸ニテ陪觀仰付らる、帝国海事協会。

摘要 午前十一時、ヘデン博士、志賀氏にて午餐会。

*新戸部夫人(新渡戸夫人) *巖小波氏(巖谷小波氏)

十一月十八日 丁丑 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下早々、閑院宮参殿、御稽古申上て帰。島津忠亮使来

る。弘、観艦式より帰宅、一泊を許さる。
発信 府知事阿部浩え書をよす。

十一月十九日 戊寅 木曜 晴。
朝、墓参して帰。課業例の如し。十七日観艦式、本日に御延しに相成る。
発信 島津伯え書をよす。

十一月二十日 己卯 金曜 晴。
朝、散歩して帰。課業例の如し。畢而揮毫ものす。陛下、御還行在らせられる。東宮殿下、御還啓在らせられる。

受信 あくりの父より樽柿贈るの書至。
*御還行(御還幸)

十一月二十一日 庚辰 土曜 晴。
課業畢る。土方伯え行。伯と閑話。学校拡張二付、三条家えの募参を頼む。庭園紅葉を観て帰。
受信 秋田千田勇子より書至。

十一月二十二日 辛巳 日曜 晴。朝細雨、已而晴。
千久子祭りして、午前十時より代々木久米氏二行。庭園菊花真盛、もき店ニ喫茶店、焼鳥や、そばや、天ほら、さゝい壺焼、鯛めし、栗めし、薩摩汁、ヒヤホール、汁粉や、くだ物や、洋食店と云、芸妓の接たい、余興もアリ。能楽堂ニは素謡、囃子、古市氏菊慈堂、六郎熊野、久米の望月、畢而帰。

摘要 代々木久米氏、午前十時より。女子大学運動会。
*もき店(模擬店) *そばや(蕎麦屋) *天ほら(天ぷら) *ヒヤホール(ピヤホール) *古市氏菊慈堂(古市氏菊慈童)

十一月二十三日 壬午 月曜 晴。
朝より書、軸物、額面十枚、揮毫す。午下二時より三光坂園田氏二行。本日ハ加藤高明夫婦、近日英国大使ニ任せらるゝニ付、送別会、実ニ大勢、盛会也。然し風にて寒く、園中の紅葉至極妙々也。食事畢而帰。

摘要 園田孝吉氏園遊会、午下二時。
十一月二十四日 癸未 火曜 晴。

課業畢。午下三時より茅町中井敬所氏を訪ふ。閑院宮様より御印章篆刻之御挨拶とあらせられ、金百円御下賜在らせられるニ付、持参致し、種々古書、経文等拝見す。四時、案内

二付、上野精養軒へ行。本日ハ地学協会会主花房子、ヘデン博士、廿六日東京出發二付、送別会ニ会す。ヘデン博士之食卓ニ瑞典公使、文部次官岡田氏、徳川家達公、同頼倫侯、瑞典海軍何官と予と也。岡田氏、記念之画をヘデン博士にとて、予、席上画を揮毫して上る、大満足。花房子、会員総代挨拶、同博士之演舌も有て六時退散。
発信 山県伊三郎殿え。

摘要 ヘデン博士送別会、上野精養軒、午下四時。

十一月二十五日 甲申 水曜 晴。

課業畢る。午下愛国婦人評議員集会す。畢而四時過帰。

十一月二十六日 乙酉 木曜 晴。

課業例の如し。廿七日之記事也。

午下二時より発起者参会。鳥尾光、智恵子、千家信子、星野花子、五島善子、角田栄子、浦四三子、三宅竜子、安田善治郎、角田真平、橋本太吉、宮原六之介、浦太郎、星野錫、志賀重昂、今津氏、増田義一、中村元嘉、水上氏、会務二付、種々評義、追々歩を進められる。七時退散。夕食弁当。
夜、雨。

*評義(評議)

十一月二十七日 丙戌 金曜 晴。

課業例の如し。午下、予、早苗連て閑院宮様え参る。殿下より、今般台湾より御持帰りの人形其外、御珍らしき品々、花蹊に見せ度と仰せられて、御呼になりたる也。実に人形数廿人余にて、文官武官、新郎新婦、商人、工夫、農、老夫婦、女兒男兒、あらゆる人間を拵へたる。今此人形師、老人一人なりと云。外に記すへきもの沢山にて、とても筆には書尽せぬ位也。五時頃退く。

此記事ハ廿六日分也。

摘要 日本婦人教育会、毛利邸ニテ。

十一月二十八日 丁亥 土曜 晴。

朝より揮毫ものす。午下一時より、予、桃子と同じく上野精養軒に行。西川氏長男と松永道子の結婚披露会、園遊会、モギ店、処々に芸者の接待、庭中に舞台を設ケ、楽隊及余興三番、畢而立食堂ニ行。食事済て、五時帰。実に盛也。庭中一はいの人也。

摘要 西川氏結婚披露会、上野精養軒。

*接待(接待)

十一月二十九日 戊子 日曜 晴。

終日揮毫す。来客、岡崎忠子。

十一月三十日 己丑 月曜 晴。

課業例の如し。半日揮毫。来客、婦人世界記者滝沢氏、大坂毎日記者枝元氏、運動世界記者原田信造。岡本椿処、生徒之印依頼す。

(十二月)

十二月一日 庚寅 火曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。来客、瀬川氏、失火之御礼に来る。

発信 柳内侍え返書す。

十二月二日 辛卯 水曜 晴。

課業例の如し。本日より四年試筆画にかゝる。来客、山内節子、今般千葉県え転任二付、御暇乞に来る。

十二月三日 壬辰 木曜 晴。

課業例の如し。五年研究の画にかゝる。来客、山本久子、越後大塚松子、久々にて尋ねらる。旧事を語る。夕景、帰る。夕午下五時五十五分、伝通院失火、見る間に勿屋根につき出し、おそろしき猛火如地獄。本堂ハ火のまゝ立ちて、其内西ノむね落、又東のむね落ちたり。庫裏にも火の移りて、沈火七時也。この大名刹も火の勢力にて一時間、灰尽に帰したり。伝通院ハ無量山寿経寺と称し、応永廿年の創建に係り、徳川家康の母伝通院の霊屋なるより、其儘伝通院と称し、了誉上人開基にて、東都十八檀林の一なり。

*勿(忽) *沈火(鎮火) *尽に(燼に)

十二月四日 癸巳 金曜 晴。

朝散歩して、伝通院の焼跡を見る。実いたましき事也。帰、課業例の如し。来客、婦人世界滝沢氏、山田幸子。

十二月五日 甲午 土曜 晴。

課業例の如し。来客、岡崎忠子、婦人画報記者水島幸子、中井敬所。受信 房州重たけ。

十二月六日 乙未 日曜 晴。

朝十時より鳥尾子御誘引にて観世に能を見る、久々にて面白く、芽かり、忠信、葛城、葵

上、乱、仕舞九番、四時済て帰。

発信 婦人世界滝沢永二氏え。

*芽かり(和布刈)

十二月七日 丙申 月曜 晴。

課業例の如し。来客、石井初子。

房州重たけより落花生着、返書出す。

発信 婦人画報記者水島幸子え書及画を出す。

*重たけ(重威)

十二月八日 丁酉 火曜 晴。

課業例の如し。午下、中島徳三先生御出、女教員等と協義あり、四時畢。

*協義(協議)

十二月九日 戊戌 水曜 晴。

課業例の如し。桃子、熊谷斎藤誠之丞氏え行。母君五日死去之由二付、御悔みに行、六時帰。来客、橋本太吉氏細君、御歳暮に。三村秩子、其母と、今般今村氏え縁談齊ひ十四日輿入二付、御暇乞ニ来る。訃音、山崎一道、去る六日死去。

発信 水野氏え旭日画と額面書出す。

十二月十日 己亥 木曜 晴。

課業例の如し。正子、岡本よし、此度夫婦連にて上海え出張二付、餞別もの持参して暇乞に行て帰。山崎一道え弔詞及金式円香奠出す。

発信 秋田千田氏え書画四枚及書状出す。

十二月十一日 庚子 金曜 晴。

課業例の如し。来客、岡本花子母。

発信 鳥尾子え書をよす。

十二月十二日 辛丑 土曜 雨。

朝九時半より、帝国教育会廿五年記念会ニ会す。十二時帰。わか泉会、忘年会執行す。十一時頃より雨降り出したり。来会者凡二百五十人。舞台に、第一、神宮后宮三韓凱旋之図、脊景御座船波濤、前に松杉アリ。第二、紫式部石山寺之図、朱の欄干、向松林、瀬田の唐橋、月。第三、佐野之渡り鉢木、演劇。第四、三ッハート。第五、校長百歳之寿筵を開く場。千代田宮妃、桜の宮妃、姫宮殿下御台臨。席上御揮毫。又英語祝文、遊戯等アリ。食事、第一、御茶せんへい、二、甘酒、三、御汁子、四、みかん、五、鳥飯、能くうれたり。

可驚。一同歓楽を尽して退散、八時過。

*脊景御座船波濤(背景御座船波濤) *御汁子(御汁粉)

十二月十三日 壬寅 日曜 晴。

朝より歳末贈り物にていそかし。午下、予、正子と神楽坂辺買物に行。四時帰。来客、基安さま。

十二月十四日 癸卯 月曜 晴。

課業例の如し。桃子、朝より万里家の整理二付、裏松子にて親族会儀に閑せり。来客、子爵山岡。房州重たけえ歳暮出す。

発信 神代鶴子え。重威え。

*会儀(会議)

十二月十五日 甲辰 火曜 晴。

課業例の如し。午後六時、南鍋町交絢社ニ於テ、鍋島侯御夫婦及清浦氏、満韓帰朝二付、東洋婦人会より晚餐会を催す。食後、清浦氏旅行談、鍋島夫人御談話等にて面白く、十時帰。

十二月十六日 乙巳 水曜 晴。風。

課業例の如し。来客、岡崎忠子。岡沢侍従武官長葬送、代理植草氏会葬す。

十二月十七日 丙午 木曜 雨。

課業例の如し。生徒画及立詠草漉。渋沢男、松尾男、わか校拡張二付、顧問承諾を得たり。汲泉臨時発行出来ず。

受信 房州重たけより。

十二月十八日 丁未 金曜 晴。

課業例の如し。

発信 渋沢、松尾男え書を出す。

十二月十九日 戊申 土曜 晴。43(度)。

課業如例。生徒一同、授業納をなして、皆帰。横浜其外え歳末物品配らす。

受信 神代鶴子より書至。

十二月二十日 己酉 日曜 晴。43(度)。

朝より書写して、十一時より薫風会ニ詣して五時帰。来客、長尾数子、不在にて不逢。塾

掃除日。

受信 秋田千田氏より羽二重着。

十二月二十一日 庚戌 月曜 晴。40(度)。

朝五時より生徒帰省す。朝より揮毫ものす。来客、斯波暉子母、戸田米子。李子、朝より堀田氏へ行。正子、石山氏へ行。李子、夜に入て堀田氏より帰、裏松千代子と同道す。此度万里家改革二付、明朝一番汽船にて渡房可致事也。

受信 秋田千田氏より書至。

十二月二十二日 辛亥 火曜 晴。6(ママ)(度)。

桃子、朝五時出立、房州行。予、午下一時より堤常子葬送二付、駒込吉祥寺二行。焼香して帰。朝より昼迄揮毫ものす。

十二月二十三日 壬子 水曜 晴。

終日揮毫ものす。来客、神津田鶴。

発信 秋田千田氏え。

十二月二十四日 癸丑 木曜 晴。

朝より揮毫ものす。午下、予、弘と同道にて上野商品館二行。新築観工場にて実に盛也。

四時帰。来客、石川君子、吉田福子母、富永園。

受信 桃子端書着、美尾野より撫漬着。

*撫漬(蕪漬) *観工場(勸降場)

十二月二十五日 甲寅 金曜 晴。

朝より揮毫ものす。正午より歳暮廻り、三条様より閑院宮様え参り、田村氏え行て帰、日暮也。来客、高橋たく也三男と鵜飼春江と結婚斉、母と三人連にて御礼に来る。不在にて不逢。

発信 石川きみえ画出す。

十二月二十六日 乙卯 土曜 晴。

朝より御内儀え汲泉献上、及外々えも発刊出す。

大坂唯専寺、願泉寺、美尾野え鮭出す。

発信 松井修徳え書をよす。

(十二月二十七日、記載ナシ)

十二月二十八日 丁巳 日曜 晴。
終日揮毫ものす。夜六時、桃子、房州より帰宅す。
発信 石沢健次郎え画書四枚出す。

十二月二十九日 戊午 月曜 雨。
朝より揮毫ものす。来客、清水初子、石山基陽。
発信 跡見輝一え備もの出す。

十二月三十日 己未 火曜 晴。

朝より画の揮毫ものも済して、午下墓参して帰。年賀状にかゝる。来客、(以下記述ナシ)
受信 神戸神代より蒲鉾着。
発信 横浜石川たか子え画を出す。跡見輝一え弔詞出す。

十二月三十一日 庚申 水曜 晴。

朝より年賀状にかゝる。昼迄にて済。午後仕舞事、床の飾付、万端済。当年八一日の病も
なくて一家無事越年、めて度き限りところそ。

受信 秋田財部梅子より。
発信 年賀状三百五十枚。
*めて度(目出度)

(明治四十一年会計)

月日	摘要	収入	支出	姓名
一日				
二日			二円五十銭	車夫え
同日				終日車代
三日				朝より車代
同日	武井健画料	拾五円		
四日			四円	泰、始え年玉
八日	一月分会計より 別府数子	拾円 五円		
同日	馬場静子	三円		
九日	阿部米子	二円		
九日	田中光子	二円		

跡見花蹊日記 明治41年

同			五円	姉小路女中え
六日			一円	宮城行
九日	井上竜太郎	十一円		礼廻り、車夫え
十二日				北辺廻り、車夫
十三日				めりんす友仙大巾一丈
	*めりんす友仙(メリンス友禪)			
同				同一丈
同				海事協会行
十七日			一円	愛夫(婦)人会費
十八日			三円六十銭	法話会本年費
十九日			五十銭	車夫へ
廿一日			一円七十銭	コート仕立代
廿日	石川信子	五円		
同	横川種子	二円		
廿一日	堀田伯	五円		
廿二日	長井利右衛門	廿五円		
入金	八拾五円也		金廿壹円十八銭也	
二月分			廿円	熱海行
			金三拾四円八十銭也	
三月分				
	會計より	十円		
			十五円五十銭	歌舞伎(伎)券五
			一円	海事協会金山氏え
			五円	貧民え救助
			五円	買物種々
十二日			廿銭	あんま *あんま(按摩)
十四日			廿銭	会費
廿五日	一条家より	三円	七円五十銭	新富券五
廿三日			三円八十銭	小切地、絹や
			三十銭	車代
			二十銭	乾氏備物 *備物(供物)
廿三日				車代

跡見花蹊日記 明治41年

七月出

別府氏	五円		
新田久子	五円		
日下田実氏	廿円		
清水初	三円	二円五十銭	大村氏
藤堂子	二円	三円	堀田伯
博文館	五十円	五円	田辺栄
田中久子	二円五十銭	三円	安田暉
森氏	五円	五円	三浦光
原氏	五十円	五円	堀内ちほ
九条様	二円五十銭	五円	佃品子
田中勝子	五円	五円	小布施春
園祥子	三円	五円	鶉飼春江

七月一日より入

廿六日	本願寺え	二百円	
廿四日			堀田氏行
廿五日			浅草本願寺
廿一日	横浜行汽電其外心付等	一円五十銭	
廿日			浅草本願寺
十八日	下紙一束	一円廿銭	
十六日	禅と長寿法二	八十五銭	麻布より方々
十三日			司法大臣行
十四日			巢鴨行
十日	ヒン一箱	四十五銭	中井、酒井行
八日			所々え
同日			高輪御殿行
七日	菓子四箱	五円	目白学修(習)院
六日			五十銭
四日			京、岡山小包
二日			新橋行
一日	酒井伯三十日祭	二円	酒井伯行
六月一日出			

四日	救済会慈善劇行入用	四円							
六日	児島氏香奠	三円							ゆかた、絹や 単衣地、同
五日	送別会精養軒	三円							精養軒町(ママ) 精養軒行
同日									しほり浴衣、絹や *しほ
十日	り浴衣(絞浴衣)							一円	
同日	浴衣地三反	三円九十銭							
同日	りほん九筋	一円五十銭							京染浴衣三反 *りほん
	(リボン)								
同日	ひん付二ツ	八銭							三円五十六銭 蝙蝠かさ *ひん(鬢)
	*蝙蝠かさ(蝙蝠かさ)								
同日	筆	一円							二円五十銭 松平定敬香奠
十一日	泉会費	二十銭							
十二日	石山氏え	五円							
	外召使十人え	五円							
十七日	大和田え中元	三円							百五十円 七月廿四日銀行え預る
十九日	北野氏え	二円五十銭							
同日	薫風会本年分	六十銭							
	電車代	十銭							
八月一日より									
	神戸行旅費	五十円							十三日 普門白紋縮緬襦伴(袷)
	沢宣良え餞別	一円							右裏地共あらい張
十七日	鈴虫籠共	十七銭							十八日 尺三巾五尺八寸 五円
同日	たをる一	十銭							画絹、升見や *たをる(タオル)
同日	おもちや	六銭							廿一日 老松菓子二箱 貳円
廿日	電賃	五銭							同日 菓子ブリキ入 一円五十銭
廿一日	糖燐散	一円							廿二日 御所車代
同日	金貨入	四十銭							廿四日 五軒町より車
同日	六、七、二ヶ月分雑費	五十円							廿五日 曙町佐野行
廿五日	心附	一円五十銭							廿六日 中黒行 七円五十銭
同日	石山氏え	廿円							
三十一日									
六、七、二ヶ月雑費不足分									
金拾九円払相済									

	本月分会計より	十円			
	奈良坂源一郎潤筆	五円			
十月二日	精養軒行車代				
	井深氏薬代				
十九日	田村霊前え	二円			
十八日	酒井夏子様え榊	二円			
十九日	中山幸子霊前え	五円			
廿二日	万里家五十年と一周年	千疋			
	郵券	一円			
廿五日	太田紹介染物屋え	六円			
十四日	謡本五十五冊製本代	二円廿銭			
	泉会費	廿銭			
廿八日	洋画電覧会ニ行	四十二銭			
					*電覧会(展覧会)
廿八日	紋羽二重綿入羽織仕立、太田				
三十一日	紋絹ひふう仕立、太田				*ひふう(被風)
十一月一日より入			出		
	会計より	拾円	十四日	\ 黒縮緬ゆのし、不門	
	加藤民子	拾円	同	白羽二重洗ゆのし、同	
	岩手県後藤長平	壹円	八日	下婢若下る二付	壹円
	博文館	五円	十四日	白羽二重ゆのし、不門	
	吉宗栄子	二円	十日	横浜汽車往復	一(円)五(十)五(銭)
	原春子	壹円		横浜車代	九十五(銭)
	石山すま子より	十五円	廿四日	上野行電車外	壹円
			同	泉会費	廿銭
			十五日	鶏卵一箱	三円
			十八日	電車二人分	廿銭
				電車二人分	廿銭
				紋羽(二)重綿入仕立	
				白羽二重綿入仕立	大田氏 *大田
			(太田)		
			廿四日	秋田織染もの、千賀	
			廿二日	どら焼一箱	一円
			廿五日	電車券	一(円)廿五(銭)
			三十日	栗色秋田羽織仕立、大田	*大田

十二月分入金	十二月出金
七日 會計より	五日 葉室伯え香料 二円
同 大炊農子より	七日 買物 四十八錢
十一日 原氏歳暮	九日 埼玉齋藤え香料 三円
十二日 堀田伴子	十日 大坂山崎一道え香料 貳円
同 田中久子	同 鮭の子糟漬罐入 壹円
同 関屋愛子	十三日 もすりん一反 三(円)廿五(錢)
*もすりん(モスリン)	同 もすりん一反 三(円)廿五(錢)
十六日 安田暉子	同 もすりん一反 三(円)廿五(錢)
*もすりん(モスリン)	同 友仙 一円八十錢
同 田中かつ子	同 友仙 二円五十錢
同 都新聞黒屋直房	同 シヤボン 六拾錢
十九日 中田富子	同 シヤボン 六拾錢
同 女官五人様より	十五日 印刷料九果(題)十(円)三十五(錢)
廿一日 来栖より	同 交詢(洵)社え会費 三円
同 田辺栄子より	同 帯々
廿二日 九条家	十九日 シヤホンニタース 三円六十錢
同 森家	廿一日 下駄代花緒共二 一円五十錢
廿三日 閑院宮様より	廿二日 石山様え 五円
廿四日 園祥子	同 太田氏え 五円
同 水野氏より	同 下婢僕九人え 四円五十錢
廿六日 新田久子潤筆	廿三日 正子え歳末 五円
同 中村芳子	同 弘え歳末 一円
廿九日 藤堂家	廿四日 籠花生 二円三十錢
同 清水初子	同 外二種々買物 五円
同	廿五日 足袋十足 三円三十錢
同	廿九日 郵券 六円
惣計貳百拾七円	はかき百五十 三円 *はかき
(端書) 五拾錢	封筒貳百枚 六拾錢
	惣計
	金八拾貳円十八錢
	諸雜費
	金七拾五円五拾四錢也

(太田)

(名刺2)
都新聞記者
黒屋直房

(挿入紙1)
(明治)九年
渡辺重石丸 蒲生重章
明治十七年

英語
宇都宮平一 菊池熊太郎 斎藤祥三郎 中根明
明治廿四年
同 廿五年

暑中、日光安田善治郎氏別荘二行。此荘安樂園と云。

水の音松ふく風を友として心清くもすめる庵かな

十一月、天長節の休暇を利用して京都より伊勢参宮す。

朝夕につかへまつりし神なからなほ仰かるゝいせの神籬

筆捨山を過て、

わか筆のはなちかたきをいかにせん筆すて山の秋の色かな

(明治)廿年
東三条公恭君
晃山記游出版
明治廿五年
三月、漢学教員平井参ヲ(以下記述ナシ)

(挿入紙2)
余科乙生
三条末子
酒井藤子
田村盛子
宇都宮桃枝
赤倉辰子
万里君子
松平好子

